

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『自ら学び、成長し、社会に貢献する、力強く逞しい女性』を育成するという建学の精神に立ち返り、社会で必要とされる教養とともに、いま求められている学力や人間力を育成することで、保護者・生徒の満足度の高い学校、地域社会に信頼される学校づくりをめざす。

- 1 生徒の主体的な教育活動を重視することで、確かな学力を育成し自己実現に向かうことのできる態度を育成する。
- 2 豊かな人間性と社会性を兼ね備え、個性や能力を生かす自立した女性を育成する。
- 3 自己も他者も認め、社会に貢献できる国際感覚豊かな情勢を育成する。

2 中期的目標

1. 教育の質（学力）の向上

- (1) これからの社会で必要とされる論理的思考力や課題解決力、コミュニケーション力の育成をめざし、生徒の主体的な学習を保障するため授業改善を推進する。
- (2) ICTの活用を図り、具体的な資格取得を目標とすることで、生徒の主体的に学び続ける意欲を育成するとともに、成就感や達成感を育む。

2. 教員の授業力向上

- (1) 授業アンケートを積極的に活用することで、学力向上に向けたPDCAサイクルを構築する。
- (2) 個々による授業改善だけでなく、教科主任をリーダーとして教科での到達目標を設定し、チームとして授業改善に取り組み、「指導と評価の年間計画（シラバス）」の充実を図る。
- (3) 授業改善に向け積極的に教員研修を実施するとともに、外部の先進的な取り組みを研究する。

3. 進学実績の向上

- (1) 学年と進路指導部の連携を強化し教師集団のチーム力で指導する体制を確立する。
- (2) 実力テストや模試等のデータを活用し、3年間を見通した進路指導計画を作成するとともに進路指導体制を確立する。成績特待生への計画的な進路指導の充実を図る。
- (3) 千里金蘭大学、金蘭会保育園など関係諸機関だけでなく、地域の様々な組織と連携したキャリアプログラムを実施する。
- (4) 生徒の進路意識醸成と進路実現に必要な学力育成のため、各コースにおいて、カリキュラムの見直しを図る。

4. 「社会に貢献する自立した女性」に必要な人間力と自立・自律する力の育成

- (1) 生徒の自主性を育成し、クラブ活動や自治会活動の充実を図る。
- (2) 学校行事の目的・意義を再確認し、行事の見直しを図る。
- (3) 生徒一人ひとりに向き合った姿勢を身につけ、指導力の向上を図るとともに、教育相談体制を確立する。

5. 広報活動の充実と地域貢献活動の実施

- (1) 塾、中学校への訪問は、時期・エリア・アピールポイントを整理し、効果的な広報展開を行う。
- (2) 在校生などの協力を得て、受験生・保護者の心を掴むような魅力的なプログラムを実施する。
- (3) 「わくわく土曜教室：英語・新体操」とStudio Kinran(親学講座)(PTAとの共催)の充実を図る。

6. 組織改革の推進

- (1) 教育活動の質的向上に向けて、組織的な学校運営体制を確立し、教職員の参画意識の向上を図る。
- (2) 具体的でわかりやすい学校経営計画を策定する。
- (3) 学校教育に関わる診断結果や授業アンケート、学校運営協議会を活用したPDCAサイクルを構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>選択肢は、1＝よくあてはまる、2＝ややあてはまる、3＝あまりあてはまらない、4＝まったくあてはまらない。文中の数字(%)は、に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答とする</p> <p>【学校生活への満足度】 (保護者)子どもを金蘭会高等学校・中学校に入学させて良かった。(85) 先生は、子どもを理解している。(76) 他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。(69) (生徒)金蘭会高等学校・中学校に入学して良かった。(88) 先生は、生徒の意見を聞いてくれる。(73) この学校には、他の学校にない特色がある。(73) (教職員)この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。(38)</p> <p>【学習指導】 (保護者)子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(59) 学校は、授業での教材や授業方法の工夫・改善に努めている。(59) 継続した家庭学習ができるように、工夫している。(62) iPad やプロジェクターなど ICT 機器が活用されている。(77) (生徒)授業は、わかりやすく楽しい。(63) 教え方に工夫をしている先生が多い。(61) 実験・観察・実習や学校外へ見学に行く機会がよくある。(48) 自分の考えをまとめ発表する機会がある。(57) 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(61) 継続した家庭学習ができるように、工夫している。(49) iPad やプロジェクターなど ICT 機器が活用されている。(77) (教職員)生徒の学習意欲に応じて、学習指導方法や内容について工夫している。(79) 参加体験型の学習など、指導方法の工夫・改善を行っている。(62) 思考力や表現力を重視した学習指導を行っている。(48) 到達度の低い生徒に対する学習指導を全校的課題として取り組んでいる。(31) 予・復習等の宿題を課し、継続した家庭学習ができるようにしている。(44) iPad やプロジェクターなど ICT 機器が活用されている。(66)</p> <p>【生徒指導】 (保護者)学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。(76) いじめについて真剣に対応してくれる。(70) 子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(74) 学校の生徒指導の方針に、共感できる。(66) (生徒)悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(58) いじめについて真剣に対応してくれる。(62) 担任以外にも保健室等で、気軽に相談することができる先生がいる。(47) 学校生活についての先生の指導は納得できる。(55) (教職員)カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(35) いじめ対しての体制が整い、迅速に対応することができる。(45) 教育相談体制が整備されている。(45) 生徒指導において、家庭との連携ができている。(52)</p> <p>【進路指導】 (保護者)学校では、将来の進路や職業について考える機会がある。(74) 錬成授業(講座)・模試、検定で進路実現に向けて取り組みをしている。(80) 進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。(60) (生徒)学校では、将来の進路や職業について考える機会がある。(69) 錬成授業(講座)・模試、各種検定で進路実現に向けて取り組みをしている。(65) 学校は、進路についての情報を知らせてくれる。(61) (教職員)系統的なキャリア教育を行っている。(24) 錬成授業(講座)・模試、各種検定など十分にしている。(52) 進路について必要な情報や機会を十分に提供している。(48)</p> <p>【道徳教育・人権教育】 (保護者)自分の生き方を考え、豊かな心を育てようとしている。(67) 子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。(67) 先生は、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。(66) (生徒)豊かな心や自分の生き方について考える機会がある。(51) 学校では、人権について学ぶ機会がある。(56) クラスやクラブは一人ひとりの人権が尊重され、安心できる。(65) (教職員)自分の生き方や将来について考えるように工夫されている。(38) 人権尊重の教育を全教職員で話し合い実施している。(28) 人権が尊重され安心できる環境づくりをしている。(45)</p>	<p>【学校生活への満足度】 ○学校生活への満足度について、保護者・生徒の評価は高い。 ○ただ、全般的な学校生活には比較的満足しているが、生徒・保護者・教職員三者とも、「金蘭会とは何か」、他校とは違い「金蘭会でこそ学べることは何か」が見えにくい現状である。 ○金蘭会での3年(6年)でどういう力を育てるのか、そのためにどんな取り組みが必要なのか、改めて見直す必要がある。</p> <p>【学習指導】 ○保護者・生徒の授業満足度は低い。教職員の評価に比して、授業改善の取り組みについて、保護者・生徒の評価は低い。 ○特に、実験・観察・実習など参加体験型授業、発表やプレゼンなど思考力・表現力を育成する授業など、保護者・生徒が求める授業(能動的、AL型授業)とは合致していない。 ○教員側も授業改善、AL型の授業へのスキルアップに不安が感じられ、教職員研修の充実など早急に組織あげての授業改善の取り組みが必要である。 ○中間層の学力低下が課題であるなか、家庭学習の定着、到達度の低い生徒への学習指導は一定評価されているが、一部の教員の取り組みとなり、全校的には取り組まれていない。</p> <p>【生徒指導】 ○教育相談体制について、保護者から一定の評価を受けている。生徒からの評価は低く、いじめ等の問題への真摯な対応を望んでいる。 一方、教員も対応が個別となり、不安から孤立し、組織的な対応と研修によるスキルアップが必要である。 ○生徒指導について、保護者・生徒の納得感が低い。一方通行、ルールの必要性をきっちり説明できていない。生徒の疑問に対して双方向の対応が必要である。 ○「理想的な金蘭生」を生徒独自在が考える自治的な取り組みを考える必要がある。また、教員側も腑に落ちていない。教員もそのルールの必要性・教育的意義をしっかりと議論する必要がある。</p> <p>【進路指導】 ○進路指導体制(情報提供も含め)について、保護者・生徒からの評価が低い。一貫した指導方針のなさ、担任・担当の変更などから不安を与えている。 一方、教員も経験のなさを補う体制が不十分なため、自信のなさが表れている。3年間見通した指導方針の確立が必要である。 ○錬成授業(講座)・模試、各種検定など進路の取り組みについて、教員の評価が低い。再度、進路指導部を中心に議論し、今度の実施や形態について考える必要がある。</p> <p>【道徳教育・人権教育】 ○生徒・教員の評価がともに低い。取り上げる課題、教材の内容、授業の手法など、生徒の感覚と合致していないことが考えられる。至急検証する必要がある。 個別の数値を取り出してみると、中二の評価が特に高い。中二の実践に学ぶ必要がある。</p>

<p>【保護者との連携】 (保護者)学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。(70) 学校のホームページをよく見る。(52) (生徒)学校のホームページをよく見る。(32) (教職員)学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。(52) 情報提供手段として、学校のホームページが活用されている。(69)</p> <p>【地域等との連携】 (保護者)生徒が地域の幼稚園、大学や病院などと交流する機会を設けている。(79) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携は、進路選択に役立っている。(60) (生徒)地域の幼稚園、大学や病院などと交流することがある。(56) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携は、進路選択に役立っている。(44) (教職員)幼稚園、大学や病院との連携の機会を設け、教育活動にいかしている。(55) 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携は、進路実現に活用している。(55)</p>	<p>【保護者との連携】 保護者連携について、保護者、教員とも数値は高くなく、特に教員に不満がある。保護者との連携を深めるため、迅速で“Face to face”の対応など信頼関係を築く必要がある。あわせて情報提供の点においては、ホームページの活用への働き掛けが必要である。</p> <p>【地域等との連携】 ○看護医療プログラムや金蘭ファーム等の実施で、保護者、生徒の評価は高い。特に進路に直結した高校の数値が高い。保護者・生徒のニーズと合致し、今後キャリアプログラムとして内容の系統性など内容を深化させる必要がある。 ○千里金蘭大学等との連携について、全体的に高くない。特に保護生徒の評価は低く、遠い存在となっている。大学・保育園の教育的資源を積極的に活用し、早期から連携プログラムを構築することが必要である。</p> <p>【全体として】 ○全体として、「金蘭会とは何か」、「金蘭会での3年(6年)でどういう力を育てるのか」という具体的なビジョンが見えにくい現状があり、また、生徒・保護者・教員の間で共有できていない。 ○学校として「めざす生徒像」・「育成すべき資質・能力」を確立し、学力育成、進路指導、生徒指導など、すべての取り組みを検証し、学校教育デザインを確立する必要がある。 ○次年度の具体的な目標としては、下記の5点があげられる。 1. 学校教育デザインの確立、2. 学力の向上、3. 進学実績の向上 4. 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成 5. 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質(学力)向上の取り組み	<p>(1) 進路実現に向けて確かな学力の育成と生徒の主体的な学習を保障するため授業改善の推進</p> <p>(2) ICTの活用や資格取得を目標とした、生徒の主体的に学び続ける意欲を育成。</p>	<p>(1) 全生徒の進路実現に向けて、生徒の進路意識の醸成を図るため、コースの教育活動の充実と授業改善を図る。 ○看護進学コースを看護医療コースに名称を変更し、医療系従事者にも対応したカリキュラムに見直す。看護医療系大学進学をめざす学力を育成する。 ○保育児童コースにおいて、千里金蘭大学や金蘭会保育園、JAと連携した「KINRAN ファーム」を実施する。 ○特別進学コースでは、国公立・関関同立等難関大学の入試に対応できる学力を育成する。 ○総合進学コースを文理進学コースに名称を変更するとともに、土曜4時間のカリキュラムを見直し、中堅大学(女子大を含む)進学に向けた学力を育成する。</p> <p>(2) 英検指導や留学プログラム等を有機的に結合し英語力の育成を図る。</p>	<p>(1) 保護者向け外部評価アンケートの「授業改善(問4)」75% [70%(2018年度)] ○保護者向け外部評価アンケートの「習熟度別(問5)」75% [71%(2018年度)] ○生徒向け評価アンケートの「授業改善」70% [2019年度より実施] ○生徒向け評価アンケートの「習熟度別」65% [2019年度より実施] 〔中学校〕学力推移調査(模試)の偏差値の向上</p> <p>(2) [中学校] 卒業時の英検3級合格率70%・漢検3級合格率50%以上[英検3級60%・漢検3級20%(2018年度)] 〔高等学校〕進研模試の偏差値の向上 〔高等学校〕卒業時の英検2級[Ⅱ類]合格率25%・英検準2級[全体]合格率の35%以上[英検2級[Ⅱ類]15%・英検準2級[全体]25%(2018年度)]</p>	<p>(1) ◎保護者アンケート「授業改善」59%(×) 「わかりやすさ」59%(×) 「予習・復習」62%(×) ・ ◎生徒アンケート「授業改善」61%(×) 「わかりやすさ」63%(×) 「予習・復習」49%(×) *看護進学コースでの「医療職体験プログラム」、「K I R A Mファーム」などの成果があった。 *基本的な学習習慣や学力(基礎学力と自己効力感)の育成が不十分である。(△) *「わかりやすさ」の数値から、生徒のつまづき等学力実態の把握が不十分で、系統的な学習指導ができておらず、3年(6年)間を見通した「わかりやすい授業」への改善が必要。(△)</p> <p>(2) ◎保護者「機器使用」77%(△) 生徒「機器使用」77%(△) 教職員「機器使用」66%(×) ◎ニュージーランド語学研修(12月実施、10名参加)(×) *Ipadの利用に関して、導入アプリケーションの使用率が、利用教員、利用時間に偏りがある。タブレットや各アプリについて、学力保障の観点で必要性、適格性についての議論が必要。(△) *留学プログラムが単発の行事となり、事前・事後研修棟系統的な実施とはならず、英語力、国際理解力の育成が不十分、全体的な教育活動としての位置づけ、意識づけが必要。(△)</p>
2 教員の授業力向上	<p>(1) 授業アンケートを活用した、学力向上に向けたPDCAサイクルの構築。</p> <p>(2) 個々による授業改善だけでなく、チームとして授業改善。</p> <p>(3) 授業改善に向け積極的な教員研修の実施すと、外部の先進的な取り組みの研究。</p>	<p>(1) 授業アンケートを2回実施し積極的に活用する。</p> <p>(2) 教科主任をリーダーに教科での到達目標を設定し、チームとして授業改善を行う。「指導と評価の年間計画(シラバス)」の充実を図る。</p> <p>(3) 授業改善にむけた教員研修として、授業公開と研究協議会(年2回以上)、外部講師等による研修(年1回以上)を実施する。</p>	<p>(1) 教員向け自己評価アンケートの「授業力の向上」80% [74%(2018年度)]</p> <p>(2) 教員向け自己評価アンケートの「学習指導について」75% [69%(2018年度)] ○教員向け自己評価アンケートの「資質向上」75% [69%(2018年度)]</p> <p>(3) 授業公開と研究協議会の実施(年2回以上) ○外部講師等による研修(年1回以上)</p>	<p>(1) ◎教職員アンケート「授業改善」79%(△) 「参加体験型」62%(×)「考えをまとめ発表」48%(×) 「習熟度別」31%(×)「予習・復習」45%(×) *授業改善ができていない。教職員個々の意識と取り組み実態が乖離している。生徒の学力実態の把握と、学校・教科・学年としての統一的な指導が確立しておらず、教職員個々の動きとなっている。(×)</p> <p>(2) ◎教職員アンケート「授業方法等の検討」24%(×) *授業改善が学年・教科全体の取り組みにまで深められていない。課題である基礎学力定着に向けて指導方針を各学年・教科で、確立することが必要(×)</p> <p>(3) ◎教職員アンケート「計画的な研修」38%(×) 「初任者等の育成」24%(×)「外部研修の参加」24%(×) *ALに関する研修(大教大島崎教授、7月)、パネッセによる学力実態の分析に基づく授業改善にむけた研修(10月~11月、3回)、発達障がいのある生徒に関する研修実施(大阪大谷大、小田教授、1月予定)など、課題解決に向けた研修を実施。(○) *外部への研修参加だけでなく、日常的に教科における研究授業など、授業力育成の機会が必要。(×)</p>

<p>3 進学実績の向上</p>	<p>(1) 学年と進路指導部の連携を強化し教師集団のチーム力で指導する体制の確立。 (2) 3年間を見通した進路指導計画の作成と進路指導体制を確立。成績特待生への計画的な進路指導の充実。</p> <p>(3) 千里金蘭大学、金蘭会保育園など関係諸機関、地域の様々な組織と連携したキャリアプログラムの実施。</p>	<p>(1) (2) ○3年では、進路実現に向け教育産業(ベネッセ)のデータを活用し、保護者等も含めた進路指導をチームで実施するとともに、管理職を含めた進路対策会議を設置する。 ○1・2年では、早期より進路ガイダンスを実施し、進路目標の明確化を図る。</p> <p>(3) ○看護進学コースでは、連携する大学や医療機関をさらに拡大に医療現場を体験するプログラムの充実を図る。 ○保育児童コースでは、千里金蘭大学や金蘭会保育園、JAと連携した「KINRAN ファーム」を実施する。PTAとも連携を図り支援を受ける。</p>	<p>(1) (2) 保護者向け外部評価アンケートの「進路指導(問8)」85% [79%(2018年度)] ○保護者向け外部評価アンケートの「進路指導(問9)」80% [73%(2018年度)] ○生徒向け評価アンケートの「進路指導」70% [2019年度より実施] ○教員向け自己評価アンケートの「進路指導」75% [67%(2018年度)] ○中学校からの内部進学率80% [65%(2018年度)]</p> <p>(3) 千里金蘭大学への内部進学者15%以上 [12%(2018年度)] ○国公立、関関同立等難関大学への合格者30名以上 [26名(2018年度)]</p>	<p>(1) (2) ◎保護者アンケート「進路指導(連携)」62%(×) 「進路指導(情報提供)」60%(×) ◎保護者アンケート「進路指導(キャリア教育)」74%(△) 「進路指導(取り組み)」80%(×) ◎生徒アンケート「進路指導(連携)」59%(×) 「進路指導(情報提供)」61%(×) ◎生徒アンケート「進路指導(キャリア教育)」69%(△) 「進路指導(取り組み)」65%(△) ◎教職員アンケート「進路指導(連携)」35%(×) 「進路指導(情報提供)」48%(×) ◎教職員アンケート「進路指導(キャリア教育)」24%(×) 「進路指導(取り組み)」52%(×) ◎中学校からの内部進学率83% [52名] (○) *3年間観(6年間)を見通したキャリア教育方針の確立が緊急の課題。それに基づく学力保障と進路保障の体制の構築が必要。(△) *データに基づいた統一した進路指導が不十分。ベネッセによる研修を実施したが、生徒データの共有化が必要。(△) *大学模擬授業(6月)、大学見学会(1年、12月)、進路講演会(2年、12月)等を実施したが、単発でキャリア教育の視点で3年間見通して位置付けることが必要。(△) (3) ◎千里金蘭大学への内部進学者24名(12.3%) 国公立、関関同立等難関大学への合格者25名 *看護進学コースでは、従来の住友病院、多根病院、バルナバ病院等のほか、多根病院での医療職体験プログラムを実施(○) *「KINRAN ファーム」では、JA大阪との連携、千里金蘭大学との連携、金蘭会保育園との交流など、社会との係わりの中で取り組みがキャリア形成に効果があった。(○)</p>
<p>4 人間力と自立・自律する力の育成</p>	<p>(1) クラブ活動や自治会活動の充実。 (2) 学校行事の見直しの実施。 (3) 教員の生徒指導力の向上と、教育相談体制の確立。</p>	<p>(1) ○蘭祭や体育祭等の学校行事を自治会主催の行事へ変革する。 ○学校説明会等における生徒ボランティアスタッフを募り、広報活動の活性化を図る。</p> <p>(2) 学校行事の目的・意義を再確認し、行事を厳選する。</p> <p>(3) ○担任・学年だけでなく、養護教諭、スクールカウンセラーが持つ生徒情報の共有化を図り、生徒に向き合う姿勢を身に着ける。 ○配慮を要する生徒については、随時ケース会議を開き対応する。</p>	<p>(1) 保護者向け外部評価アンケートの「人間関係(問10)」90% [84%(2018年度)] ○生徒向け評価アンケートの「人間関係」70% [2019年度より実施]</p> <p>(2) 教員向け自己評価アンケートの「生徒会活動」85% [81%(2018年度)]</p> <p>(3) 教員向け自己評価アンケートの「家庭連携」90% [85%(2018年度)] ○教員向け自己評価アンケートの「カウンセリング体制」90% [87%(2018年度)]</p>	<p>(1) ◎保護者アンケート「学校行事」82%(△) 「人権教育」66%(×) ◎生徒アンケート「学校行事」75%(○) 「人権教育」56%(×) *蘭祭や体育祭において、自治会主催Tシャツ作成。全体の企画運営まで参加できず、自治意識主体性の育成に至っていない。(△) *実施時期や・実施回数、内容を改善。生徒ボランティアスタッフが受験生のロールモデルとして評価が高く、広報活動を活性化。(○) (2) ◎教職員アンケート「学校行事」59%(×) 「生徒自治会活動」35%(×) 「部活動」69%(×) *校外教授・宿泊研修(中1、中2、高1)、校内競技会・体育祭等、生徒育成の視点での検討(△) *授業時数確保に向け、夏季休業期間の授業を見直しが必要。(×) (3) ◎教職員アンケート「カウンセリング」35%(×) 「いじめ」45%(×) 「教育相談体制」45%(×) *生徒支援委員会(9月、5回実施)を発足させ、支援の必要な生徒の情報全職員で共有化できる体制が確立。(○) *支援が必要な生徒に対して、随時ケース会議を開き、方策については、SCや外部機関と連携し検討した。(○) *発達特性のある生徒に関する研修を実施(大阪大谷大、小田教授)し、支援教育へのスキルアップを図る。(○)</p>

<p>5 広報活動の充実</p>	<p>(1) 塾、中学校への効果的な広報の展開。 (2) 受験生・保護者の心を掴むような魅力的なプログラムの実施。</p>	<p>(1) ○塾・中学校の要望の把握を徹底的に行う。する必要がある。 ○保護者・生徒の満足度の高い学校、地域社会に信頼される学校づくりへの取り組みや姿勢、新生金蘭会を広報する。 (2) 卒業生や生徒ボランティアスタッフの参加で参加者の将来が思い描けるようなイベントに内容を充実させる。</p>	<p>○塾訪問件数 件以上 ○中学校訪問件数 件以上 (1)(2) ○中学校オープンスクール参加数 各回 50 組以上 ○中学校入試説明会参加数 各回 50 組以上 ○高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上 ○高校入試説明会参加数 各回 100 組以上</p>	<p>(1) *重点地域を配置し、複数回の訪問を実施。より綿密な塾・中学校訪問を実施し、ニーズ把握に努める。(○) *募集広報担当の実質1名減のため、機動性に欠ける状態となった。要員の確保が最重要である。(×) (2) ◎〈各イベント参加者数〉 ○中学校 ●オープンスクール参加数 第1回18組[28組]、第2回33組[51組] ●入試説明会参加数 第1回9組[一]、第2回17組[一]、第3回32組[53組]、第4回34組[54組] ○高校 ●オープンスクール参加数 第1回55組[139組]、第2回70組[132組]、第3回51組[204組] ●入試説明会参加数 第1回(60組[87組]、第2回(68組[70組]、第3回45組[43組]) *参加人数の面では、昨年度に比して減少している。受験率は上昇している。(△) *内容面において大きく見直し、受験生のロールモデルとしての卒業生や生徒ボランティアスタッフの参加、新たな企画(入試問題解説、ミニ講演等)の実施で保護者。受験生のニーズに合致していた。(○) *本校のめざす生徒像についての発信が、保護者に十分理解を得た。(△)</p>
<p>6 組織的な学校運営体制の確立</p>	<p>(1) 教職員の参画意識の向上。 (2) 具体的でわかりやすい学校経営計画の策定。 (3) 学校教育に関わる診断結果や授業アンケート、学校運営協議会を活用したPDCAサイクルの構築。</p>	<p>(1) 企画運営会議を充実させるとともに、若手教員を積極的に産ませ、議論の双方向性を確保する。 (2) 本校がめざす方向性が整理され、焦点化された内容に厳選する。 (3) ○データに基づく客観的な自己評価と、外部評価の活用を徹底する。 ○PDCAサイクルの早期化(12月総括→2月来年度方針)を図る。</p>	<p>(1)(2) ○教員向け自己評価アンケートの「校内人事」70% ○教員向け自己評価アンケートの「教員間連携」70% ○教員向け自己評価アンケートの「会議運営」70% ○教員向け自己評価アンケートの「協力体制」70% (2) ○教員向け自己評価アンケートの「校長のリーダーシップ」70% (3) ○教員向け自己評価アンケートの「計画的な研修」70% ○教員向け自己評価アンケートの「若手教職員の育成」70% ○教員向け自己評価アンケートの「校外研修」70%</p>	<p>(1)(2) ◎教職員アンケート「校長のリーダーシップ」83%(○) 「校内人事」28%(×) 「教員間連携」35%(×) 「会議運営」35%(×) 「協力体制」59%(△) *グローバルスタンダードコース(仮称)委員会を10月発足。追手門学院大学など外部との連携などを通じて、12月にカリキュラムの概要を報告。(○) *従来のコースの見直しを検討。コースの概念を確立し、コース長を中心にカリキュラム検討に着手。(○) *改革の方向性については共有化したが、協働性・双方向性が不十分、チームとしての一枚岩の組織作りが必要。(×) (3) ◎教職員アンケート「計画的な研修」38%(×) 「若手教職員の育成」25%(×) 「校外研修」31%(×) *総括の前倒し(12月)を行い、重点課題の明確化と次年度への迅速な対応が可能となった。(○) *今年度は直面する課題として「授業改善」・「支援教育」について、学識経験者の招いた研修を2回実施した。(○) *系統的・組織的な教員育成体制(計画的研修〈校内研修・外部研修〉)の実施が必要(×)</p>